

9月17日 コロサイの信徒への手紙3章14～17節

説教題：「新しい一步を踏み出そう」

今日の聖書箇所では、いくつもの命令の最後に「すべてを主イエスの名によって行いなさい」という命令がなされています。私たちが行うすべての事が「イエス様の業である」と考え、私たちが話すすべての言葉が「イエス様が語る言葉である」と考えることが求められています。「私たちが言いたいこと」ではなく「イエス様が言いそうなこと」を話し、「私たちがやりたいこと」ではなく「イエス様であればこうしたであろうこと」をするようにと、パウロは手紙の読者に求めているのです。

私たちは、洗礼を受けたその日から「好きなようにしていい私」ではなくなりました。洗礼によって浴びせられた水によって、本来であれば私たちが身を沈めるほどの深さの水をもって、古い私たちの命は一度洗い流されているのです。今いる私たちは、新しい命をイエス様に与えられて、イエス様の十字架によって生かされている命であり、私たちの思想や欲望などではなく、神様から受けた愛と、イエス様への信仰によって突き動かされていく命なのです。だからこそ、私たちは「イエス様のための言葉」「神様のための行動」を行い続けるのです。そのすべての言動が、周囲のすべての人に見られている、「これがクリスチャンだ」と思われながら生きていることを自覚しなければいけないのです。

それでも恐れることなくその業を続けることが出来るのは、私たちの神様が間違いなく「私たちと共にいる」方であり、その神様の愛によって私たちが結びあわされているからであります。私たちはその神様に注がれた愛を受けて、イエス様によって導かれて、今このように礼拝に集うことができています。これが、私たちが「一つ」に結びあわされた結果なのです。

私たちが生きる奥羽教区では、これまで様々な出来事が起きました。多くの先達によって教会が立てられていき、いつしか教会に勢いがなくなっていました。そして、突然に襲い掛かった東日本大震災という大きな災害によって、立ち直ることが出来るか分からないほどの被害を受けることになったのです。新型コロナウイルスの影響も同様です。「交わることがゆるされない」という、教会の存続にかかわる状況が私たちに襲い掛かってきました。しかし、私たちはそれに負けることなくすべての時を乗り越えて、今のこの瞬間があるのです。

新しい時代が始まろうとしています。それは災いを乗り越えた時代か、災いと共に生きる時代か、もしかしたら新たな災いの前夜なのかもしれません。しかし、私たちは恐れることなく新たな一步を踏み出すことが出来ます。そこに神様の愛があり、その愛によって何をすればいいのか教えられているからこそ、嵐の海の中へでも、「ここに教会があるよ」と一人でも多くの人々を招く業を続けることが出来るのです。神様によって導かれている、その頼もしさを胸に、今週一週間の、これからの歩みを進めていきましょう。

今日の説教箇所：コロサイの信徒への手紙 3 章 14～17 節

- 14: これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。また、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい。キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。